



活動報告

【熊本県】

熊本県支部 活動報告

文責 世話人 佐藤寛美

1. 熊本県支部 世話人会開催

2026年1月27日 19:00~20:00 (ZOOM 開催)

参加者(敬称略・あ順): 飯田 緒方 小林 後藤 佐藤 澤田 下原 田浦 高柳 田中 藤井 宮原 柳原

2025年度の活動報告および今後の支部活動について意見交換を行いました。

1. 2025年度 JPCA 熊本県支部 講習会・総会報告

- ・収支報告
- ・事後アンケート結果
- ・総会議事録の共有
- 活動の振り返りと次年度に向けた課題について協議

2. KP リスト(Kumamoto Primary Care Mailing List)について

- ・運用状況について報告
- 今後も支部活動や研修会などの情報発信ツールとして活用していくことを確認

3. 看護学ワークショップ 開催準備について

- ・当日の運営体制・予算など協議

4. 2026年度活動方針について協議

- ・講習会・総会
- ・専攻医勉強会
- ・看護学ワークショップ

5. その他

- ・第20回 JPCA 九州支部総会・学術大会@沖縄 2026年1月31日-2月1日
- ・九州支部 多職種協働委員会活動について

新たに谷田病院の柳原恵梨先生、事務の藤井将志さん、飯田亜由さん、ファーマダイワの下原修治さんが世話人として加わり、支部活動の体制強化が図られました。熊本県支部では、今後も講習会・総会、専攻医勉強会、看護学ワークショップなどを通して、地域のプライマリ・ケアの発展に貢献する活動を継続していく予定です。

2. 看護学ワークショップ開催報告

2026年2月28日(土)、熊本大学本荘北キャンパス山崎記念館1階研修ホールにて、「プライマリ・ケア看護学ワークショップ@熊本」を開催しました。



本ワークショップは、プライマリ・ケアの現場における看護師の臨床推論やトリアージの視点について学び、職種でのディスカッションを通して実践的な学びを深めることを目的として実施しました。

当日は看護師・薬剤師など多職種が参加し、症例をもとにしたグループワークを行いながら、臨床判断のプロセスや思考過程について活発な意見交換が行われました。参加者からは、「現場の事例を用いた説明で理解しやすかった。」「多職種での視点の違いが学びになった。」「トリアージが実践に役立つ。」といった感想が寄せられ、実践的な学びの場となりました。



写真 ワークショップ当日の様子(熊本大学 山崎記念館)

熊本県支部では、今後も地域のプライマリ・ケアに関わる多職種が学び合い、連携を深める機会を継続して提供していきたいと考えています。

本ワークショップの開催にあたり、ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

【大分県】

宮崎大分総合診療つながるカフェ 2026 (MOST2026) 開催しました！

2026年3月7、8日に宮崎大分総合診療つながるカフェ 2026(MOST2026)をアパホテル宮崎延岡駅前にて開催しました。MOSTとして宮崎大学と共同で開催するのは、今年で4回目です。宮崎大学、大分大学の医学生計29名が参加してくれました。

初日は学生企画のアイスブレイクで盛り上がったあと、大分大学担当分セッションの『8階病棟』で整形外科コマネジメント症例を通して、病院総合医としての診断へのアプローチの仕方や、ポリファーマシーへの対応の仕方などを疑似体験してもらいました。次の宮崎大学担当分セッションの『地域バーチャル診断ワークショップ』では一人の患者さんの自宅退院を目指すにあたって、どんな地域資源が利用できて、それに伴って具体的にどんなプランを考えていくのかを、実際にフィールドワークも行いながら考えました。二日目は、宮崎大学、大分大学の学生企画の『学生が創る！多職種カンファ』では、それぞれの学生が医師や看護師、ソーシャルワーカー、作業療法士、管理栄養士など様々な職種になり切り、患者さんの思いを実現するために、みんなで方針を考える多職種カンファレンスを体験し、ディスカッションを行いました。どの企画もとても面白く、大変勉強になりました。学生さんたちも大いに盛り上がってくれました！次年度以降もぜひ継続していきたいと思えます！

《参加した学生さんからの感想》

◎今回、MOSTに参加させていただいて、総合診療についての知識や大事にするべきことなど、たくさんのことを学ばせていただきました。1日目の先生方のセッションでは、患者さんに寄り添い、異変を見逃さずに対処していくことや、患者さんの地域での暮らしをイメージすることの大切さを学ぶことができました。2日目の学生企画のセッションでは、多職種カンファレンスのロールプレイを通して、患者さんの希望を基に、みんなで現状を共有し、話し合っていくことの大切さを学ぶことができました。患者家族としての参加でしたが、介護の負担に寄り添ってくれたり、難しい手続きも一緒に進めたいと声をかけていただいたりして、ロールプレイとはいえ、とても心強かったです。患者さんやご家族に寄り添い、多くの職種の方々と連携して、患者さんやご家族と共に前に歩いていけるような医師を目指したいなと思いました。そして、学生の皆さんや先生方との交流もとても楽しく、学ばせていただくことも多くて、本当に良い刺激となりました。このような

貴重な経験をさせていただいたことに感謝して、これからもがんばっていきたいです。またぜひ参加させていただきたいと思いました。

◎今回のMOSTでは、医学生が医師・看護師・管理栄養士・作業療法士・医療ソーシャルワーカーなどの役割を担当し、多職種カンファレンスを体験する企画を実施しました。患者の生活背景や希望を踏まえながら、それぞれの職種の視点から意見を出し合い、支援方針を考える過程を通して、多職種連携の意義を実感することができました。

本企画を準備するにあたり、各職種の方々に何度もお話を伺いました。その中で、同じ患者を見ていても職種によって着目する点や優先する課題が異なることを知り、医療だけでなく生活や社会的背景を含めて患者を捉えることの重要性を改めて感じました。また、症例やカンファレンスの内容が実際の現場とかけ離れないよう検討を重ねる過程そのものが、私たちスタッフにとって多職種理解を深める貴重な学びの機会となりました。今回の経験を通して、多職種それぞれの専門性を理解し尊重することが、患者中心の医療を実現するうえで不可欠であると感じました。今後も多職種連携について学び続け、臨床の場で活かしていきたいと思えます。

文責 吉村亮彦



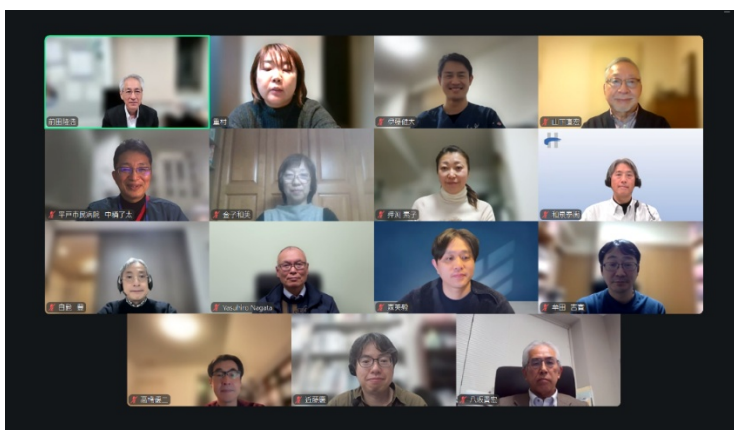
【長崎県】

1. 「日本プライマリ・ケア連合学会 長崎県支部会 2026年度 第1回世話人会の開催」
日 時：2026年1月7日(水) 19:00~20:00
場 所：オンライン開催 (Zoom)

出席者：和泉泰衛、伊藤健大、押刈素子、金子和美、近藤慶、白髭豊、高橋優二、中桶了太、
永田康浩、藤井卓、前田隆浩、牟田吉寛、森英毅、八坂貴宏、山下直宏(以上敬称略) (事務局：重村由香)

【議題・報告事項】

- (1) 第13回学術集会・講演会について
- (2) 役員改選について
- (3) 会則改定について
- (4) その他



2. 「日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会 第13回学術集会・講演会ならびに
第14回ポートフォリオ研修会開催の報告」

■第13回学術集会・講演会

開催日時：2026年1月24日(土) 13:30~17:45

場所：長崎大学医学部構内(記念講堂・ポンペ会館)

※参加者67名(内訳：医師・歯科医師43名、その他：12名、特別講演のみ聴講：12名)

■第14回ポートフォリオ研修会：合同開催

開催日時：2026年1月24日(土) 9:00~12:30

場所：長崎大学医学部構内(セミナー室)

※参加者24名(内訳：指導医15名、専攻医8名、その他：1名)

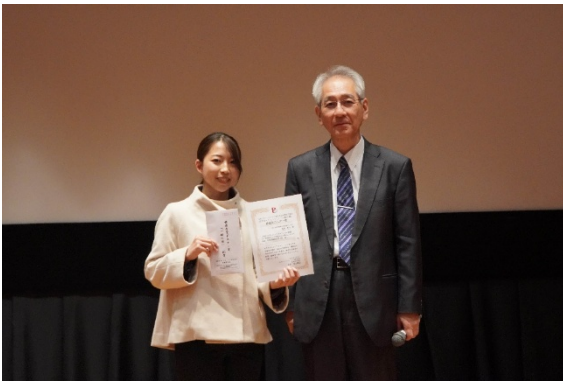
《ポスターセッション受賞者のご紹介》

【最優秀賞】

演題名：『入院時COVID-19スクリーニングの意義は？』

地域流行との関連および検出コストの記述：単施設横断研究(第一報)』

国立病院機構長崎医療センター 塩塚 梨央 先生

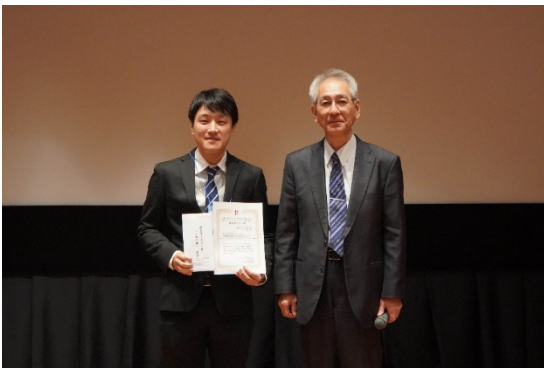


(写真左：塩塚 梨央 先生 右：大会長 前田 隆浩 先生)

【優秀賞】

演題名：『AYA 世代の乳がんと病いの語り 医療福祉の学生が語りをきくということ』

長崎大学医学部医学科 羽生 瑞紀 様



(写真左：羽生 瑞紀 様 右：大会長 前田 隆浩 先生)

【優秀賞】

演題名：『総合病院における摂食障害入院症例の実態：過去 10 年間の後ろ向きケースシリーズ』

国立病院機構長崎医療センター 総合診療科・総合内科 小川 紗智 先生



(写真左：小川 紗智 先生 右：大会長 前田 隆浩 先生)

【優秀賞】

演題名：『妊娠したら市外へ：母子手帳データに基づく平戸市の妊産婦の移動について
地域医療の課題を添えて』

国民健康保険 平戸市民病院 中桶 了太 先生



(写真左:中桶 了太 先生 右:大会長 前田 隆浩 先生)

第 13 回学術集会・講演会 13:30~17:45

～プログラム～

- 1. 開会挨拶 13:30~13:35** (長崎大学医学部記念講堂)
長崎大学病院 総合診療科 教授/
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 離島・へき医療学講座 離島医療研究所 教授/
日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会 会長
前田 隆浩 先生
- 2. 特別講演 13:35~15:00** (長崎大学医学部記念講堂)
演 題:『地域に根ざした医療への挑戦 ～地域と大学の共創を支えに～』
講 師:前田 隆浩 先生
長崎大学病院 総合診療科 教授/
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
離島・へき地医療学講座 離島医療研究所 教授/
日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会 会長
座 長:藤井外科医院 院長/
日本プライマリ・ケア連合学会 長崎県支部会 副会長
藤井 卓 先生
- 3. ポスターセッション 15:15~16:45** (長崎大学医学部ポンペ会館)
演題番号①~⑩ (抄録は別記載)
【グループA】 座 長:森 英毅 先生
国立病院機構 長崎医療センター
【グループB】 座 長:門田 耕一郎 先生
重工記念長崎病院
※ポスターは、当日の 12:30 から掲示可能です。
※演者の方は事前に受付とポスター掲示をお済ませのうえ、15:00 までに
会場(長崎大学医学部ポンペ会館)までご参集ください。
※1 演題あたり 10 分(発表:6 分、質疑応答:3 分、交代1 分)での発表を
予定しています。

4. 総 会 17:00~17:40 (長崎大学医学部記念講堂)

5. 閉会挨拶 17:40~17:45

藤井外科医院 院長/

日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会 副会長

藤井 卓 先生

特 別 講 演

日 時 : 2026年1月24日(土) 13:30~15:00

場 所 : 長崎大学 医学部記念講堂

講 師 : 前田 隆浩 先生

長崎大学病院 総合診療科 教授/

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 離島医療研究所 教授/

日本プライマリ・ケア連合学会 長崎県支部会 会長

演 題 : 『地域に根ざした医療への挑戦 ～地域と大学の共創を支えに～』

座 長 : 藤井 卓 先生

藤井外科医院 院長/

日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会 副会長



【略歴】

前田先生は1985年に長崎大学医学部を卒業後、原研内科（血液内科）に入局し、血液疾患の診療に従事しながら、泉川病院や五島中央病院などの関連病院において幅広く地域医療に携わってきました。そして、1996年から原研内科の助手を務めた後、2000年には長崎大学病院に新設された総合診療部の講師、2001年には助教授に就任し、大学院における総合診療科の立ち上げやOSCE等の医学教育改革に尽力されました。2004年には、長崎県と五島市による寄附講座である離島・へき地医療学の教授に就任し、地域医療に関する教育・研究体制を県内離島地域で立ち上げ、2012年には地域医療学分野の教授に、そして2017年には長崎大学大学院地域医療協働センターのセンター長に就任して地域での教育・研究活動を発展させました。そして、2018年には総合診療学分野の教授に就任し、総合診療の推進と専門医の育成に力を入れておられます。

1985年 長崎大学医学部卒業

1985年 原研内科（血液内科）に入局し、長崎大学医学部附属病院と佐世保市立総合病院で臨床研修

1988年 泉川病院で地域医療に従事

1993年 長崎県離島医療圏組合五島中央病院で離島の医療に従事

1998年 長崎大学医学部附属病院原研内科 助手 1999年に成人T細胞白血病研究で博士号取得

2000年 長崎大学医学部附属病院総合診療部 講師 新部門である総合診療部の立ち上げに貢献

2001年 長崎大学医学部附属病院総合診療部 助教授

2004年 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 離島・へき地医療学講座 教授

全国初の自治体による寄附講座の教授に就任し、五島中央病院内に離島医療研究所を設置し、離島での教育・研究・診療支援をスタート

2012年 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 地域医療学分野 教授

新分野の教授に就任し長崎県全域での教育・研究をスタート

2017年 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 地域医療協働センター センター長
分野横断的な地域医療の教育・研究推進のための組織を創設し初代センター長に主任

2018年 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 総合診療学分野 教授

【その他のNGO活動・社会活動等】

2014年～日本プライマリ・ケア連合学会 理事

2020年～一般社団法人全国地域医療教育協議会 理事長

2022年～日本病院総合診療医学会 理事

2024年 五島市特別功労賞を受賞

2025年 機構長を務める「国境を越えた地域医療支援機構」が平戸市特別功労賞を受賞

ポスターセッション・抄録集

日 時：2026年1月24日（土）15：15～16：45

場 所：長崎大学医学部ポンペ会館

演題番号：①～⑩

【グループA】 演題番号：①～⑧

座 長：森 英毅 先生 国立病院機構 長崎医療センター

【グループB】 演題番号：⑨～⑩

座 長：門田 耕一郎 先生 重工記念長崎病院

① 学生主体による健康啓発活動としての薬膳カフェの実践

大賀千瑚¹、橋爪凜¹、濱田航一郎²、松島加代子³、寺澤佳洋⁴

1. 長崎大学医学部医学科
2. 長崎大学病院 総合診療科
3. 長崎大学病院 医療教育開発センター
4. 医療法人 弘池会 口之津病院

② AYA世代の乳がんと病いの語り 医療福祉の学生が語りをきくということ

羽生瑞紀¹、佐伯慶一郎¹、後藤光¹、大西蒼²、石本葉音²、松本恵³、永田康浩⁴

1. 長崎大学医学部医学科
2. 長崎純心大学 人文学部福祉心理学科
3. 長崎大学病院 乳腺・内分泌外科
4. 長崎大学医学部地域包括ケア教育センター

③ 神経梅毒を伴う2期梅毒の治療経過中に梅毒性骨髄炎の診断に至った一例

原田英鷹¹、鳥巢裕一¹、和泉泰衛¹

1. 長崎医療センター 総合診療科・総合内科

④ 「急性期病院には生活の場がない」という気づきから始まった院内デイケア立ち上げの試み

飯田充瑛^{1,2}、湊賢典³、松尾祐里³、村田渚³、河野厚子⁴、中島由夏⁴、鳥巢裕一²、中野祐子¹、近藤慶¹

1. 上戸町病院総合診療科
2. 国立病院機構長崎医療センター総合診療科
3. 上戸町病院リハビリテーション部

4. 上戸町病院看護部

⑤ 入院時 COVID-19 スクリーニングの意義は？

地域流行との関連および検出コストの記述：単施設横断研究（第一報）

塩塚梨央¹、森英毅¹

1. 国立病院機構長崎医療センター

⑥ 総合病院における摂食障害入院症例の実態：過去 10 年間の後ろ向きケースシリーズ

小川紗智¹、森英毅¹、

1. 国立病院機構長崎医療センター 総合診療科・総合内科

⑦ 文化的処方としてのアートワークショップが離島住民の well-being に及ぼす影響

下敷領一平¹、五十嵐央²、花村衣咲^{1,3}、川尻真也¹、二里哲朗¹、前田賢吾¹、野中文陽⁴、
宮田潤⁴、前田隆浩^{4,5}、松下計²、伊藤達矢⁶、永田康浩¹

1. 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療学分野
2. 東京藝術大学大学院美術研究科デザイン専攻第 4 研究室
3. 長崎県立大学シーボルト校看護栄養学部栄養健康学科
4. 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科離島・へき地医療学講座
5. 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科総合診療学分野
6. 東京藝術大学社会連携センター、東京藝術大学共創拠点推進機構

⑧ Long COVID 患者と家族を支える多職種連携による包括的支援の一例

原口友美¹、長浦由紀²、増田真吾^{2,3}、前田隆浩²

1. 長崎大学病院 地域医療連携センター
2. 長崎大学病院 総合診療科
3. 長崎大学病院 総合感染症科 国際感染症予防診療センター

⑨ A 病院における LGBTQ に関連した医療課題に対する意識調査と取り組み

赤島友美¹、岡澤加代子¹

1. 健友会 上戸町病院 外来看護

⑩ 病院が行う訪問診療における褥瘡治療の現状と課題

渡海大隆¹、谷口育昌¹、門田耕一郎¹、高橋優二¹、野元健行¹

1. 重工記念長崎病院

⑪ Aji-fry City Partnership

『モコちゃんに看取られる』第 2 弾 ～初めての施設看取り～

押淵素子¹

1. 医療法人社団壮志会押淵医院

⑫ 妊娠したら市外へ：母子手帳データに基づく平戸市の妊産婦の移動について地域医療の課題を添えて

中桶了太¹

1. 国民健康保険 平戸市民病院

⑬ 救急車のない五島市久賀島における救急搬送シミュレーションの実施報告

宮田潤¹、野中文陽¹、下敷領一平²、麻生有二³、水戸寿志⁴、川口俊次郎⁵、前田隆浩^{1,6}

1. 長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻 離島・へき地医療学講座
2. 長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科 先進予防医学共同専攻 地域医療学分野
3. 五島市国民健康保険 久賀診療所
4. 五島市福祉保健部 国保健康政策課
5. 五島市消防署
6. 長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科 先進予防医学共同専攻 総合診療学分野

⑭ 多系統萎縮症における睡眠・覚醒障害に対する考察

橋本康史¹、佐々木庸輔¹、近藤英明¹、長浦由紀¹、本田哲朗¹、小笹宗一郎¹、濱田航一郎¹、赤羽目翔悟¹、増田真吾¹、山梨啓友¹、中道聖子¹、前田隆浩¹

1. 長崎大学病院 総合診療科

⑮ “先天性中枢性肺胞低換気(CCHS)に対するNPPVの使用についての考察

佐々木庸輔¹、近藤英明¹、長浦由紀¹、本田哲朗¹、橋本康史¹、小笹宗一郎¹、濱田航一郎¹、赤羽目翔悟¹、増田真吾¹、山梨啓友¹、中道聖子¹、前田隆浩¹

1. 長崎大学病院 総合診療科

⑯ “長崎大学病院総合診療科における睡眠・覚醒障害診療

近藤英明¹、佐々木庸輔¹、長浦由紀¹、本田哲朗¹、橋本康史¹、小笹宗一郎¹、濱田航一郎¹、赤羽目翔悟¹、増田真吾¹、山梨啓友¹、中道聖子¹、前田隆浩¹

1. 長崎大学病院 総合診療科

大会事務局：日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会

長崎大学病院 総合診療科内

〒852-8501 長崎県長崎市坂本1丁目7-1

TEL:095-819-7591 FAX:095-819-7372

E-mail: pcn-office@ml.nagasaki-u.ac.jp

主 催：日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会

後 援：長崎市医師会



【佐賀県】

日本プライマリ・ケア連合学会 佐賀県支部 活動報告

1. 佐賀県支部会員数

医師：36名 薬剤師：1名 その他：3名 計：40名（2026年3月現在）

2. 活動報告

会名称/日程	内容	
<p>第5回 JPCA 佐賀セミナー 2026年9月3日(木) (WEB 開催予定)</p>	<p>診断推論戦略セッション 「症例検討から学ぶ診断推論戦略by JUGLER (特別編11)」</p>	<p>座長：多胡 雅毅 (佐賀大学医学部附属病院 総合診療部) 司会：鋪野 紀好 (千葉大学大学院医学研究院 地域医療教育学・千葉大学医学部附属病院 総合診療科) ディスカッサント： 志水 太郎 (獨協大学 総合診療医学) 佐々木 陽典 (東邦大学医学部 総合診療・救急医学講座 (大森)) 和足 孝之 (京都大学医学部附属病院 総合臨床教育・研修センター) 高橋 宏瑞 (順天堂大学医学部 総合診療科) プレゼンター：未定</p>
<p>第21回九州支部総会・学術大会 2027年3月6日(土) ～7日(日)会場：佐賀大学医学部 (ハイブリッド開催予定)</p>	<p>大会長講演・教育講演 シンポジウム・一般演題 ワークショップ・ランチオン企画公募企画・キャリアカフェ等を企画中</p>	<p>教育講演 安西慶三先生：プライマリ・ケアにおけるフットケア、足病変 小田康友先生：地域医療教育改革 高橋宏和先生：プライマリ・ケアで診る肝疾患 森本忠嗣先生：プライマリ・ケアで診る整形外科疾患 杉山庸一郎先生：プライマリ・ケアで診る耳鼻科疾患 野多加志先生：感染症診療</p>

つながる・学ぶ・考える
～地域ので拓く
プライマリ・ケアの未来～



日本プライマリ・ケア連合学会
第21回
九州支部総会・学術大会

2027 3.6^{SAT} - 3.7^{SUN}

会場 佐賀大学医学部
佐賀市鍋島5丁目1-1

大会長 多胡 雅毅
(佐賀大学医学部附属病院 総合診療部)

大会事務局 第21回九州支部総会・学術大会実行委員会
〒849-8501 佐賀県佐賀市鍋島5丁目1-1
TEL : 0952-34-3238 E-mail : jpca.saga@gmail.com

【鹿児島県】

(1) 第 13 回鹿児島総合診療合同勉強会

日時：令和 8 年 2 月 7 日（土） 18:10~19:10

場所：オンライン開催

主催：鹿児島総合診療合同勉強会 運営チーム

共催：日本プライマリ・ケア連合学会鹿児島支部会

講演：社会医療法人 敬愛会 中頭病院 総合内科医長 與那覇 忠博 先生

<開催報告>

沖縄で主に学生～初期研修医の教育に関わってくださっている與那覇先生をお呼びして、オンラインでの講演を開催しました。沖縄と鹿児島の離島医療の違いや、総合診療領域における教育の重要性についてわかりやすくお話しいただきました。参加された方には、過去離島へき地での医療に従事されたことがある先生もおられたり、「〚シマ〚の一員になること」の重要性を指摘くださる意見をいただいたりしました。離島医療と教育という組み合わせの内容だったこともあり、「若い医師が島で働くことのメリットがとても多いことを改めて知りました」という意見もありました。今後も地域医療に関する講演を企画していきたいと思います。

(2) 第 84 回鹿児島地域医療教育報告会

日時：令和 8 年 3 月 19 日（木） 9:00~13:00

場所：ハイブリッド開催（Zoom 配信、鹿児島大学医学部第 4 講義室）

主催：鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 地域医療学分野/離島へき地医療人育成センター
鹿児島大学医学部

鹿児島県保健福祉部 医師・看護人材課

共催：日本プライマリ・ケア連合学会鹿児島支部会

後援：鹿児島県医師会

内容：鹿児島大学医学部医学科 1-2 年生による初期地域医療実習報告

参加者：90 名